



写真① 栄楽館外観。むくり屋根になっている

# 古民家新聞

匠を感じる住まい

vol. 30

10月末には津市美里町の築約100年の古民家を舞台に古民家鑑定士実技講習を開催し、四日市市の宮大工・伊藤喜一氏の解説していただきながら、10名余りの参加者が伝統工法の見方を勉強しました。そして、11月中旬には三重県の古民家再生協会のメンバーで伊賀の茶室勉強会を開催。数寄屋マニアの伊賀語り部さんに、普段なかなか出会えない数寄屋・茶室建築をご案内いただきました。

今回はその中で訪れた中の一つ、「栄楽館」について少しだけご紹介します！

## 伊賀の数寄屋・茶室建築が面白い！



写真③ 蔵の外壁のなまこ壁



写真④ 孟宗竹で装飾された和室の内壁

**数寄屋建築「栄楽館」**

江戸時代から続いた生業問屋であったこの建物は、明治6年に改装し昭和58年頃まで料理旅館として営業した後、現在では伊賀市に寄贈され生涯学習のための公共施設として利用されています(写真①)。

約570㎡の敷地面積のなかに、蔵と3棟の数寄屋風建築が中庭を囲むようにコの字型に並んでおり、3棟はそれぞれ真(書院造風)・行・草(草庵茶室)のそれぞれの格式を感じさせるような造りになっ



写真② 桜の枝を使った和室天井

ています。扇垂木の庇やむくり屋根など見どころは満載ですが特に目を引く変わったデザイン(の箇所を少しご紹介いたします。傘のような形をした和室の天井(写真②)。こちらは桜の皮付きの枝が放射状に組まれており、中心には桜の根の部分が使われておりユニークな形状です。

また、蔵の外壁の白色の漆喰仕上げは「鼓繫ぎ」と呼ばれる伊賀地方特有のなまこ壁の意匠で全国的にも珍しいものだそうです(写真③)。漆喰がかまぼこ状に盛り上がった部分(鼓の形)になっています。伊賀ではここ以外にも登録有形文化財の寺村家住宅前蔵(三重県伊賀市上野福居町333711)の外壁でもこの鼓型のなまこ壁を見ることが出来ます。

写真④は和室の壁の一部に孟宗竹を割ったものを設えています。ここだけでなく栄楽館の各所には竹がモチーフとして頻繁に登場しますので見学の際にはぜひ探してみてくださいね。

【栄楽館】伊賀市上野相生町2842

### 伊賀ってどんどころ？

江戸時代には、藤堂藩の城下町として、また伊勢参宮者を迎える宿場町として栄えてきました。名古屋と大阪のほぼ中間地点に位置し、奈良・京都からも1時間余りで移動可能な圏内にあるという地の利の良さにより古くから文化の交差点にもなっています。俳聖・松尾芭蕉や作家の横光利一、江戸川乱歩の故郷として、また能の大成者・観阿弥ゆかりの地としても知られるこの地方は現在も由緒ある寺社や建物、町並みが数多く残され、三重県内でも立派な古民家が数多く残っている地域です。

裏面もご覧ください

お問い合わせは

一般社団法人 三重県古民家再生協会

〒510-8016 三重県四日市市富州原町10-6 TEL059-366-3833 FAX059-361-1717 mail info@tap-s.com

kominka-mie.org